様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０２４３

研究課題名（和文）ポストコロニアル台湾の日本語作家・黄霊芝に関する総体的研究

研究課題名（英文）A study of Kou Reishi 's literature written by Japanese in Postclonial Taiwan

研究代表者
下岡　友加（SHIMOOKA, yuka）

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：３０５４８８１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は主に次の三点である。第一に、黄霊芝の小説・童話・俳句を収録した『戦後台湾の日本語文学　黄霊芝小説選２』（渓水社、2015.6）を刊行した。これにより、黄の文業を社会に還元し、後続の研究を促す一資料を提供することができた。第二に、黄霊芝へのインタヴュー調査を継続し、彼の声を記録した。戦後を生き抜いた台湾作家の価値観を知ることができ、台湾史においても貴重な資料である。第三に、他作家との比較やジャンルを超えた作品分析により、未だ十分に知られているとは言えない黄霊芝文学の特徴を相対的・総体的に明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The result of this study is in three points. First, I published "Kou Reshi' novels written by Japanese in post war Taiwan". Second, I was able to continue the interview to Kou Reishi.It is precious document on Taiwanese history.Third,I was able to clarify a characteristic of Kou Reishi's literature.

研究分野：日本文学

キーワード：日本語文学　ポストコロニアル文学　台湾史　黄霊芝

１．研究開始当初の背景

黄霊芝（一九二八－二〇一六、本名：黄天驥）は台南市に生まれた作家である。日本統治下の台湾で十七歳まで日本語教育を受けた彼はこれまでに俳句、短歌、小説、随筆、評論、童話など幅広いジャンルに渡る日本語作品を書きあげてきた。単著に『黄霊芝作品集』全二一巻（一九七一～二〇〇八）があり、創立当初（一九七一）からその死去に至るまで四十五年に渡って台北俳句会主宰をつとめた。

黄霊芝は二〇〇四年、日本で出版された『台湾俳句歳時記』（言叢社、二〇〇三・四）により、第三回正岡子規国際俳句賞を受賞し、二〇〇六年には「日本文化紹介に寄与した」として旭日小綬章を授与された。日本語のみならず、中国語、フランス語での創作も行い、一九七〇年には、日本語を自身で中国語に書き直した小説「蟹」で第一回呉濁流文学賞を受賞した。二〇〇六年には台湾文学家牛津奨を受賞している。このように一部では既に高い評価を受けてきた黄であるが、彼の作品の殆どは部数の限られた非売品（自費出版）に収められているという事情もあり、受賞歴に比して創作活動の内実は、これまで十分に検討されてこなかった。

台湾では、戦前は日本語が強制され、戦後は一転して中国語使用が義務づけられた。しかし、黄霊芝は国民政府の圧政下では命の危険さえ伴う日本語による創作をあえて選択した。それは政治や国が変わる度に言語を奪われる、被植民者の立場からの、そして言語を創作の道具とする作家としての命がけの異議申し立てであった。自国に多くの読者は期待できない、発表の場もないという創作者として最大のデメリットと引き替えに、戦後一九五〇年代から逝去するまで黄霊芝は日本語による創作を継続してきた。従来の「日本文学」は、日本の植民地統治によって生まれた黄霊芝のような日本語作家の存在をとりあげることなく、いわば自閉している。

戦後台湾で日本語を使用して創作し続ける黄霊芝の文学行為を追究することは、「『日本－日本人－日本語－日本文学』という国家・民族・言語・文化を一体のものとして捉える等式の下に作り上げられ」（小森陽一『〈ゆらぎ〉の日本文学』（日本放送出版協会、一九九八・九））てきた、「日本文学」という制度そのものを根本から揺さぶり、問い直す視座を我々に与えるものである。

２．研究の目的

「日本文学」という枠組みを越えた「日本語文学」という観点から、台湾の日本語作家・黄霊芝の文学の内実を明らかにすることを目的とする。日本語使用が禁止された戦後の台湾で、あえて日本語で創作を行ってきた黄霊芝の文学営為を追究することで、〈帝国〉日本が植民地に残した負の遺産と、日本＝日本人＝日本語＝日本文化という了解の上に成り立ってきた「日本文学」という制度を再検討する視座を得る。あわせて、世界のポストコロニアル文学状況を広く考察するための一つの契機とする。

３．研究の方法

平成 23 年度～平成 25 年度科学研究費課題である「ポストコロニアル台湾の日本語表象―黄霊芝文学を中心に―」(若手 B 研究代表者:下岡友加　課題番号 23720113)の成果と残された問題を引き継いで研究を行う。具体的には第一に、黄霊芝文学の総体を小説のみならず、他ジャンル作品の考察も含めて明らかにする。第二に、黄霊芝本人へのインタヴューを続行し、黄自身の許可を得た上で記録を公にする。第三に、ポストコロニアル文学の研究成果と接続することで、黄霊芝の営為を世界の文学状況のなかに位置づけ、評価する。最終的に黄霊芝に関する書物刊行に向けての総論の構築までを本研究の到達点とす

る。

研究代表者は黄霊芝が主宰する台北俳句会に可能な限りで参加し、黄霊芝との交流を深め、インタヴュー等の活動をより円滑に行うことにつとめる。さらに、黄霊芝の家族、知人、親類、友人等にも取材し、得られた情報の客観化をはかる。

４．研究成果

本研究の成果として、主に下記の三点があげられる。

（１）『戦後台湾の日本語文学　黄霊芝小説選２』（渓水社、2015）を編集・刊行した。黄の許可を得て、彼の日本語小説７編と童話４編、書き下ろし原稿である「自選百句」を収録した。これらに研究代表者はこれまでの研究成果を踏まえた解説「はじめに」を加えた。2012 年に刊行した『戦後台湾の日本語文学　黄霊芝小説選』（渓水社）に続く黄霊芝に関する基礎的資料を広く社会に還元、公表した。

（２）インタヴューを通じて黄霊芝の肉声を記録・公表し、黄の価値観や創作環境等について詳らかにした。黄霊芝は二〇一六年三月に逝去したため、結果として当資料は黄の最晩年における貴重な記録となった。

（３）黄霊芝の創作作品、特に小説並びに俳句を支える具体的な方法を明らかにした。また、台湾を代表する先行他作家(呉濁流)との比較のなかで顕著となる、黄霊芝文学の特質についても論究した。

なお、本研究助成期間終了後となるが、本研究成果の一部は2017年7月8日(於日本)、同年 8 月 26～27 日(於台湾)、同年 10 月 27～29 日(於韓国)に学会発表のかたちで公表することを予定している。そこでは世界のポストコロニアル文学状況を踏まえた上での黄の文学営為の位置づけ、黄によって実現された日本語表象の可能性について、個々の作品・表現の実例に基づきながら論じる予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5 件）

① 下岡友加「戦後台湾の日本語文学・黄霊芝「自選百句」の表現」『表現技術研究』2017 年 3 月、第 12 号：19-34 頁　査読無

② 下岡友加「戦後台湾の日本語小説―黄霊芝「蟹」論―乞食に託された自画像―」『日本近代文学』2016 年 5 月、第 94 集：123-135 頁　査読有

③ 下岡友加「台湾の日本語作家・呉濁流と黄霊芝の比較考察」『県立広島大学人間文化学部紀要』2016 年 3 月、第 11 号：179－188 頁　査読無

④ 下岡友加「戦後台湾の日本語作家の声 黄霊芝氏インタヴュー（3）」『県立広島大学人間文化学部紀要』2015 年 3 月、第 10 号：68 －80 頁　査読無

⑤ 下岡友加「日本語は誰のものか？―ポストコロニアル台湾の日本語作家・黄霊芝の方法―」『フェンスレス』2014 年 6 月、第 2 号：77-89 頁　査読無

〔学会発表〕（計　3 件）

① 下岡友加「戦後台湾の日本語文学―黄霊芝「自選百句」の方法―」広島芸術学会研究例会（於サテライトキャンパスひろしま）2016 年 12 月 17 日

② 下岡友加「戦後台湾の俳人・黄霊芝の俳句観―「自選百句」を中心に―」台日「文学と歌謡」国際学術検討会（於台湾・国立台湾文学館）2016 年 6 月 4 日

③ 下岡友加「戦後台湾の日本語小説―「蟹」再考―」日本近代文学会春季大会（於東京大学）2015 年 5 月 31 日

〔図書〕（計　1 件）

① 黄霊芝著・下岡友加編『戦後台湾の日本語文学　黄霊芝小説選２』渓水社　2015

年 6 月：全 211 頁

〔その他〕（計　2 件）

① 〈解説〉下岡友加「台湾川柳会の歴史的意義」江崎紫峰『海外の川柳事情』新葉館出版 2015 年 12 月： 27－28 頁

② 〈コラム〉下岡友加「黄霊芝さんの日本語創作について」広島芸術学会『広島芸術学会会報』2015 年 12 月、第 135 号：1 頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
　　下岡 友加（SHIMOOKA , yuka）
広島大学・大学院文学研究科・准教授
　研究者番号：30548813

(4)研究協力者
　　阿部　由里香（ABE , yurika）
台湾大学大学院博士課程後期在学